

広島県での日本母体救命システム普及協議会 (J-CIMELS) の取り組み

占部 智¹⁾・豊田 紳敬²⁾・仙波 恵樹¹⁾・甲斐 一華¹⁾・花岡 美生¹⁾・児玉 尚志¹⁾

1) 国立病院機構 東広島医療センター 産科婦人科

2) 豊田レディースクリニック

Initiatives conducted by the Japan Council for Implementation of the Maternal Emergency Life-Saving System (J-CIMELS) in the Hiroshima Prefecture

Satoshi Urabe¹⁾・Nobutaka Toyota²⁾・Satoki Semba¹⁾・Ituka Kai¹⁾・Mio Hanaoka¹⁾・Takashi Kodama¹⁾

1) Department of Obstetrics and Gynecology, National Hospital Organization Higashihiroshima Medical Center

2) Toyota Lady's Clinic

日本母体救命システム普及協議会 (J-CIMELS) は、2015年に妊産婦死亡数の更なる減少を目指すために設立され、母体救命コース (J-MELS) を開催している。広島県では広島県産婦人科医会を主体として広島産科婦人科学会等関連諸団体の協力のもとに「J-CIMELS広島」を設立し、2017年9月から活動を行っており、2019年4月までにJ-CIMELS公認講習会を7回開催し、受講者総数は472名である。これまでの我々の活動の成果を受講者テストやアンケート結果から評価検討を行った。受講者数はベーシックコースのテスト (8点満点) の平均点は、プレテスト6.86点、ポストテスト7.83点と有意に上昇していた。受講者アンケートでは、99.7%が講習に満足しており、99.5%が同僚に受講を勧めたいという結果であった。「J-CIMELS広島」設立時、県内のインストラクター数は2名という状況であったが、現在は48名となっている。受講者テストやアンケート結果より高い学習効果を認めており、講習内容も好評であったことから有意義な講習会が行えていると考えられた。

The Japan Council for Implementation of the Maternal Emergency Life-Saving System (J-CIMELS) Hiroshima was established in Hiroshima with the cooperation of various groups associated with the Hiroshima Society of Obstetrics and Gynecology. As of April 2019, J-CIMELS Hiroshima has hosted the J-CIMELS certifying training course 7 times and organized 22 courses attended by 472 students. To evaluate the outcomes of these activities, we carried out a study based on the results of student tests and questionnaire surveys. Along with other prefectures, we co-organized courses for local communities and training instructors by introducing activities aimed at spreading information about J-CIMELS. The average score in the test designed for BC was 6.86 and 7.83 points for tests conducted before and after completion of the course, respectively. A course evaluation survey addressed to the participants showed that 99.7% were satisfied with the course, and 99.5% would recommend it to their colleagues. After completion of the courses, 24 became instructors. The tests administered to students as well as the questionnaire survey results showed high learning effectiveness. Furthermore, the course content was well received by the learners, showing that J-CIMELS Hiroshima has conducted meaningful workshops.

キーワード : J-CIMELS, J-MELS, J-CIMELS広島

Key words : J-CIMELS, J-MELS, J-CIMELS Hiroshima

緒 言

日本母体救命システム普及協議会 (Japan Council for Implementation of Maternal Emergency Life Saving System: J-CIMELS) は、我が国の妊産婦死亡の一段の減少を目指すために日本産婦人科医会、日本産科婦人科学会、日本周産期新生児医学会、日本麻酔科学会、日本臨床救急医学会、京都産婦人科救急診療研究会、妊産婦死亡検討評価委員会の7団体により設立され、日本看護協会、日本助産師会、日本助産学会が協賛団体として参加している。妊産婦死亡数の低下には産婦人科医師のみでなく、周産期医療従事者の協働および実践教育が

重要であり、母体救命法を普及させることを目的に全国でJ-CIMELS講習会 (J-MELS) が開催されている。J-MELSには、母体急変の第一発見者がまず行うべき救命処置を学ぶ「ベーシックコース (BC)」とベーシックコースのインストラクターになるための「インストラクターコース (IC)」、高次医療施設に搬送されてきた重症母体への対応を学ぶ「アドバンスコース (ADC)」、硬膜外麻酔下での分娩を安全に行うための医療安全講習会「硬膜外鎮痛急変対応コース」がある。2015年にJ-CIMELS設立後、急速にJ-MELSは普及し、2018年12月までに全ての都道府県でBCが開催され、これまでの受講者数は約1.5万人である。J-CIMELSの普及により、

バイタルサインの重要性や母体急変時の初期対応や高次施設への搬送のタイミングなどが周産期医療従事者に広く認知されたこともあり、2010年に29%であった産科危機的出血による母体死亡例が、2018年には12%まで減少している¹⁾。

広島県では、2017年4月に第69回日本産科婦人科学会学術講演会（広島市）にて、J-CIMELS本部主催で初めてJ-MELSが開催され、同年9月の第70回中国四国産科婦人科学会学術講演会PlusOneセミナー（広島市）で中四国では隠岐島に続いて2度目の地域主催開催となった。中四国はインストラクターが少なく全国的にJ-MELSの普及が遅れており、地域で講習会を受講する機会がない状況を打開するため、「J-CIMELS広島」は本格的に活動を開始した。これまでの我々の活動の成果について評価検討を行ったので報告する。

方 法

J-MELSの主な講習活動であるBCの受講者376名の職種と勤務先の内訳と広島県内の分娩取扱施設（総合病院、総合病院以外の病院・有床診療所）に勤務する産婦人科医と助産師総数に対する受講率よりBC受講者の現状の把握と今後の課題について検討を行った。BC講習会前後で行うプレテスト・ポストテストの結果と受講者アンケートの集計結果から我々が行った講習会が受講生にとって有意義なものであったか確認を行った。我々は計画的なインストラクターの育成を進めており、広島県内の公認インストラクター数の推移についても検討を行った。統計学的解析はEZR（Easy R）を使用し、2群間の比較にはt検定を用いて、 P 値 <0.05 を有意差ありと判断した。

結 果

広島県産婦人科医学会主催の公認講習会として、県内外の周産期医療従事者を対象に2019年4月までに7回の講習会を開催している。累計コース開催数は22回（BC: 18回、IC: 3回、ADC: 1回）で受講者総数は472名であった。受講者の内訳はBC: 376名（医師129、助産師222、看護師22、救命救急士1、医学生2）、IC: 84名（医師66、助産師18）、ADC: 12名（医師12）であった。BC受講者の職種での内訳は助産師58.3%、医師28.4%で、勤務先での内訳は総合病院勤務67.8%、病院・有床診療所勤務26.8%という結果であった（図1）。また広島県内の分娩取扱施設の医療従事者総数におけるBC受講率は、産婦人科医（常勤・非常勤）44.7%、助産師34.5%であった。しかし勤務先での受講率の内訳では、助産師は総合病院勤務34.0%、病院・有床診療所勤務35.7%と受講率に差がなかったのに対し、医師は総合病院勤務72.4%、病院・有床診療所勤務24.3%という結果であった（図2）。BC講習会前後で行うテスト（8点満点）の平均点は、プレテスト6.86点、ポストテスト7.83点と有意に上昇しており、受講者アンケートでは、99.7%が講習に満足しており（大変満足94.3%、まあまあ満足5.4%）、99.5%が同僚に受講を勧めたい（是非勧めたい94.7%、まあまあ勧めたい4.8%）という結果であった（図3）。「J-CIMELS広島」設立時、広島県内のインストラクター数は2名（産婦人科医1、救急医1）という状況であったが、計画的なインストラクター育成を行った結果、現在48名（産婦人科医33、救急医5、麻酔医2、総合診療医1、助産師7）と全国5位のインストラクター数を有するまでになっている（図4）。

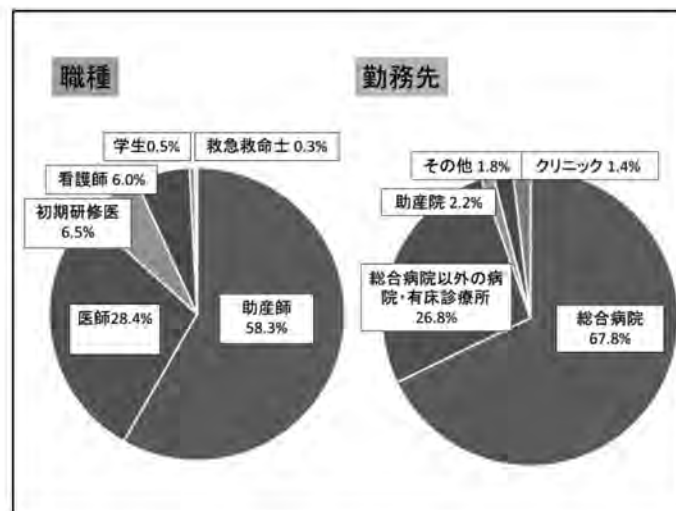


図1 ベーシックコース受講者の内訳（対象者：376名）

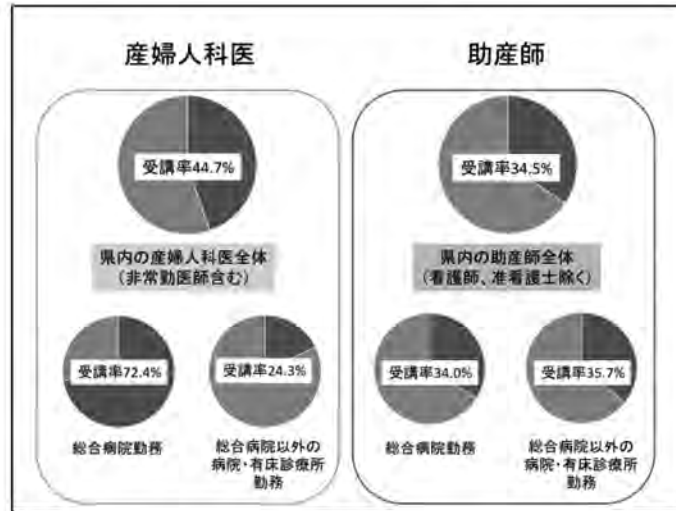


図2 県内の分娩取扱施設における産婦人科医・助産師のベーシックコース受講率

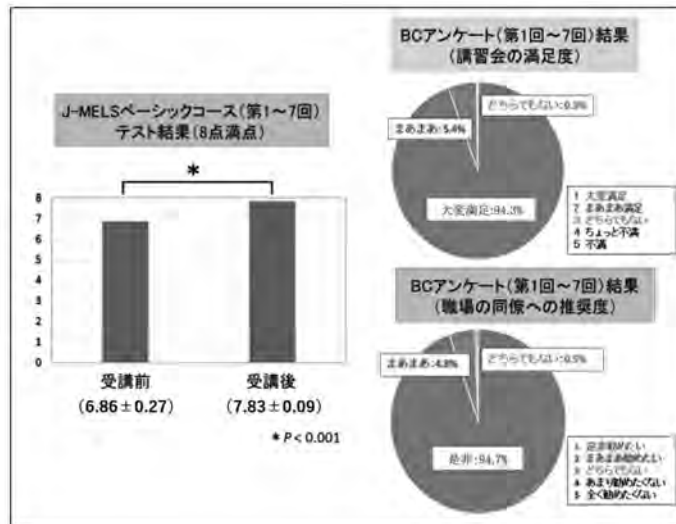


図3 ベーシックコースのテスト、アンケート結果のまとめ (対象者：376名)

	2017.6	2017.10	2018.4	2018.10	2019.2	2019.4
産婦人科医	1	5	16	19	25	33
助産師	0	0	2	6	6	7
救命救急医	1	2	3	4	5	5
総合診療医	0	1	1	1	1	1
麻酔科医	0	0	0	0	0	2
看護師	0	0	0	0	0	0
救急救命士	0	0	0	0	0	0
総数	2	8	22	30	37	48

第1回
2017/9/23

第2回/第3回
2018/1/6-7
2018/3/24-25

第4回/第5回
2018/10/6
2018/11/23

第6回/第7回
2019/2/23-24
2019/3/23-24

図4 県内のインストラクター数の推移

考 察

広島県では広島県産婦人科医会を中心に周産期医療従事者への広報とホームページでの告知を積極的に行うことで、広島県内の産婦人科医の44.7%、助産師の34.5%がBC受講を修了している状況である。BC受講者の職種による内訳は、助産師58.3%、医師28.4%であり、全国平均²⁾(助産師57%、医師28%)とほぼ同等の内訳であった。広島県内の分娩取扱施設の医療従事者総数におけるBC受講率は、助産師は勤務先による受講率に差がなかったのに対して、総合病院以外の産婦人科医は受講率が低く今後の課題と考えられた。受講しやすい開催日時で、開催場所を固定せず地域の周産期医療を担っている施設の近くでも定期的に講習会を開催するなどの取り組みが必要と思われる。講習会を告知して勧誘しても受講していただけなかった有床診療所の産婦人科医が、BCを受講した自施設の助産師からの口コミで受講に至ったケースも多く、J-MELSの受講生が同僚に薦めたいと感じてもらえるような質の高い講習会を提供することも重要であると感じた。J-MELSは講習会を通じて地域の周産期医療施設との連携を育むことができるため地域の病診連携の強化につながるという側面もあり、その地域の周産期医療情勢を担っている産婦人科医のインストラクターが中心に活動することが望ましい。しかし中四国地方は講習会の普及が他の地域よりも遅れていたこともあり、熟練したインストラクター数が不足しており、我々の活動開始当初は近隣各県のインストラクターに協力を要請してインストラクターの養成に努めた。産婦人科専門医がベーシックコース・インストラクターになるにはBC受講(ポストテストで合格基準を満たすこと)、IC受講後にBCでアシスタントとしてインストラクター補助を1回行うことが必要だが³⁾、中四国各県でも広島県と同様のインストラクター不足という悩みを抱えていた。この状況を打破するために2019年3月に行った第7回講習会では、中四国10大学からインストラクターとして活躍が望まれる産婦人科医を推薦いただき、2日間でBC: 5回、IC: 1回、ADC: 1回(受講者総数162名)の大規模講習会を開催した。この講習会により広島県で11名、広島県外で24名のインストラクターを育成することができた。中四国各県でさらに定期的な講習会が開催される契機になるのではないかと考えている。今回検討を行った受講者テストやアンケート結果より、高い学習効果を認め、講習内容も好評であったことからこれまでの計画的なインストラクターの育成が功を奏し、有意義な講習会が行えていると考えている。

結 語

広島県でのこれまでのJ-CIMELSの取り組みについて

紹介した。今後も受講生が満足できる質の高い講習会を提供するためにインストラクター技能の向上を行いながら継続して活動を行っていきたい。

文 献

- 1) 妊産婦死亡症例検討評価委員会. 日本産婦人科医会編. 母体安全への提言2018. 2019: 11-12.
- 2) 長谷川潤一. 日本の妊産婦を救うために2020. 関沢明彦, 長谷川潤一編. 東京: 東京医学社, 2020: 28.
- 3) 京都産婦人科救急診療研究会 産婦人科必修 母体急変時の初期対応 第1版 J-CIMELS公認講習会ベーシックコース インストラクターマニュアル. 東京: メディカ出版. 2018.

【連絡先】

占部 智
国立病院機構東広島医療センター産科婦人科
〒739-0041 広島県東広島市西条町寺家 513 番地
電話: 082-423-2176 FAX: 082-422-4675
E-mail: urabe3104@gmail.com